



ユーリ・テミルカーノフ ©読響

名誉指揮者テミルカーノフ 来日直前インタビュー

もう好きな作品しか 指揮しない年齢です

読売日本交響楽団の名誉指揮者ユーリ・テミルカーノフが2月、読響との公演に臨む。自ら率いるサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団のリハーサルに現地で立ち合い、ロシアの巨匠に来日公演に向けた抱負を聞いた。

(読売新聞モスクワ支局長 花田吉雄＝写真も)

人生の悲劇が潜む ラフマニノフ作品

「読響とは2000年の初共演以来、たびたび共演を重ねています。読響はどのようなオーケストラだと思いますか」

「どの世界のオーケストラも人間と同じことで、それぞれに独自の性格をもっています。それぞれに違うのです。人は出会ったときに、すぐにお互い好意をもったり、嫌いになったりすることがあります。オーケストラも、それと同じです。いわば『化学反応』のようなものです。読響と私の間でもそれが起きたのです。私は読響のメンバ

ーに気に入ってもらっているようですし、私も彼らがとても好きです。みな優れた音楽家たちで、常にいい演奏をしようと心がけていますから。

「この2月は、三つのプログラムで7公演を指揮されます。10～12日の東京、横浜公演でメインとなるラフマニノフの交響曲第2番について、聴きどころや特徴を教えてください」

「私はもう自分が好きな作品しか指揮しない年齢になっています。とりわけラフマニノフの作品はどれも好きです。いや、ほとんどの作品が、と言っておきましょうか。彼の音楽は、最もロシア的なものの一つで、常に美しい。しかし、その美の背後には、悲劇

性が潜んでいます。それは彼の人生の悲劇であり、またロシア的な性格によるものでもあります。

「定期演奏会(16日)のメインでは、レスピーギの交響詩『ローマの松』を演奏されます。レスピーギへの思いを聞かせてください」

「レスピーギはとても興味深い作曲家で、極めて色彩的で創意工夫に富んでいます。また、真のイタリア人である点も私は気に入っています。

「マエストロといえばロシアの作品が得意なイメージがあります。レスピーギは珍しい演目のように思いますが」

「私がよくロシアのクラシック作品を演奏するのは、海外公演に頻繁に出かけるからです。そこではロシアの楽曲を演奏することが求められます。ですが、レスピーギやブラームスを演奏する機会があるときは、いつでも喜んで演奏しますよ。

「21日は大阪、22日は福岡での公演です。マエストロが読響と大阪・福岡で公演するのは初めてです。大阪と福岡のお客様へメッセージをいただけますか」

「よろしくお伝えください！ 私は大阪にも福岡にも行ったことがあります。私のオーケストラと一緒に訪れたときのことを、まだ覚えてくれているのではないかと思います。日本のコンサートホールはどこもとても演奏しや

すいし、聴衆のみなさんも素晴らしいですね。

作品の意味を知る ソリスト二人との共演

「今回、共演するヴァイオリンのレティシア・モレノ、ピアノのニコライ・ルガンスキーはマエストロご自身が指名されました。知り合った経緯を教えてください」

「モレノと知り合ったのは8年前。以来、何度も共演を重ねてきました。ルガンスキーとは、もう覚えていないくらい、ずいぶん前のことです。私のオーケストラと頻繁に共演しています。海外で共演することもよくあります。

「二人はどんな点で魅力的ですか」

「彼らは何のために演奏するのかということを知っています。これはソリスト誰もが知っているとは限りません。つまり二人は何を演奏するのか、なぜ演奏するのか、その曲はなぜそう書いているのか、結局、その作品の意味は何なのかを、きちんとわきまえているわけです。その意味で二人とも本物の演奏家で、私は大好きです。

「2018年はマエストロが80歳を迎える記念の年です。芸術監督を務めるサンクトペテルブルク・フィルの活動はどのような予定でしょうか」

「マリス・ヤンソンスがすでに何度か

私の誕生日に来演してくれています。(80歳の記念イベントとしては)ガラ・コンサートを開催することになります。もっとも今回が初めてではないので、特に目新しいものはないでしょう。シーズン中に自分で祝うことはやりません。

「この11月にはサンクトペテルブルク・フィルとも来日される予定です。記念すべき年に、二つのオーケストラを日本で指揮することについて思いをお聞かせください」

私もメンバーも日本に来るときは大喜びです。日本は驚くべき国だからです。我々にとって日本はいつ目にもあまりにも美しく魅力的です。公演も日本的に、つまり理想的に組織・運営されています。すべてが時間通りで、すべてが練り上げられていて、ハプニングが起きません。日本での公演は、ヨーロッパやアメリカに比べると、いつでもはるかに楽ですね。

国民にとって悲劇だった ロシア革命の試練と反省

「2017年11月にロシアは史上初の社会主義国家を樹立した『ロシア革命』から100年の節目を迎えました。ご自身はロシア革命をどうとらえていますか」

革命は歴史的事実です。うちの楽団



リラックスして取材に応じるマエストロ

では、ロシア革命をテーマにしたコンサート・シリーズも行っています。しかし、私は、革命がロシアにとって幸せだったとは思いません。この事実はロシアにとって悲劇だったと考えますが、これは恐るべき時代で、ロシアにとって大いなる試練でした。どうしてこれを国民が乗り越えられたのか、わからないぐらいです。ロシア人のもつユーモア感覚が救いになったのかもしれないですね。

ドイツ人は、第2次大戦後に反省しましたが、我々はこの共産主義時代について反省していません。だから我々は、どの方向に進むべきかをはっきりわからずにいるのです。我々はまだ過去に引きずられています。過去がどんなものであったか解明せずには、今後何をすべきかを定めることはできません。このことは特に強調したい。必ず書いておいてくださいよ。

テミルカーノフ×サンクトペテルブルク・フィル リハーサル・ルポ

バレエのように宙を舞う両手

ロシア第2の都市にあるサンクトペテルブルク・フィルハーモニー大ホール。1942年8月9日、ナチス・ドイツ軍の包囲下で、ショスタコー



張りつめた空気が流れる練習風景

ヴィチの交響曲第7番〈レニングラード〉が演奏された伝説の舞台だ。

2017年9月23日、テミルカーノフは同フィルのシーズン初日公演を翌日に控え、最終リハーサルに臨んでいた。曲はショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第1番。マエストロはジャケットをさっと脱ぎ、口をぎゅっと閉じた。そして指揮棒を持たずに、滑らせるように両手を動かし始めた。

その手さばきはバレエを舞っているかのよう。演奏中、小さな声で指示を出す、それほど頻繁ではない。楽団員も巨匠の意図するところを瞬時にくみ取り、演奏に反映させる。楽曲はどんどんと進んでいく。

リハーサル終了。マエストロはこの日、初めて顔を緩めた。楽団員に向かって、「ありがとう」と一言、ねぎらいの言葉をかけた。ソリストからの記念撮影の求めにも気さくに応

じ、談笑したあと、ジャケットを肩にかけながら満足そうな表情で舞台を後にした。



リハーサル直後に行われたインタビュー。マエストロはたばこをくゆらせ、エスプレッソをおいしそうに飲みながら、リラックスした表情で答えてくれた。

読響の印象やラフマニノフの楽曲への思いなど、答えの中には、含蓄のある言葉が随所にちりばめられていた。とりわけ、強く印象に残ったのは「ロシア革命」についての考えだった。マエストロは「待っていました」と言わんばかりに、身をのりだすように率直に答えてくれた。

マエストロが奏でるロシア音楽に深みがあるのは、ロシアの歴史に真摯^{しん}に向き合おうとする姿勢が底流にあるからかもしれないと、素直に思った。

心に残るクラシック

恩田 陸 — ③

Riku Onda

シューマン様に謝れ！

シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54



©読売新聞社

子供の頃、引越が多かったので、四歳からのべ五人の先生にピアノを習った。の中で、唯一「ピアノを弾くのが楽しい」と思わせてくれたK先生に習ったのは小学校六年生の一年間だけだったが、引越する時に「僕のいちばん好きなピアニスト」と先生がくださったレコードがデュヌ・リパッティだった。長じて、もう一度リパッティを聴くようになったのはずいぶんあとで、OLとの兼業作家だった私が独立して専業作家になり、1Kのアパートから2DKのアパートに引越し、大きなCDラックを購入してからのことだった。近所——といっても私鉄のひと駅ほど歩いたところの商店街に小さなクラシック専門のCDショップがあって(新譜と中古を両方扱っている店で、店主はほとんどを仕入れに出かけているのか、週に三日しか営業していなかった)、そこで何枚かりパッティのCDを入手したのがきっかけだった。

古い音源のものが多く、録音状態のいいものはそんなに残っていないのだが、それでもその水際立ったタッチ、「これ以外ありえない」という自然かつモダンな表現に引き込まれた。中でも、今も名盤とされる、カラヤンと収録したシューマンのピアノ協奏曲は何度聴いたか分からない。特に、第一楽章のカデンツァ部分と第三楽章のラスト前の転調部分は^{しば}何度聴いても痺れる。

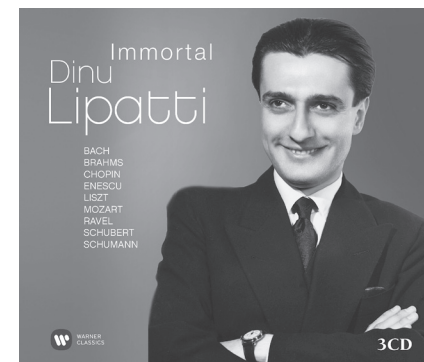
自身もピアノの名手だったというシューマンだが、ピアノ協奏曲はこの一曲しか残していない。ふと、何かの折りに、ピアノ協奏曲の難易度ランクというのを見ていたら、シューマンの協奏曲が最高難度としてあるのに驚いた記憶がある。

私はこの曲の譜面も持っているが、ざっと見た感じでは、そんなにめちゃくちゃ難しいという感じではない。少なくとも、「こんなのどうやって指押さえるの？」みたいなところはないし、メロディーも素直で、ただ譜面通りに弾く

だけであれば、あまり手の大きくない私でも、しばらく練習すれば弾けそう。これが他の名だたる協奏曲よりも難しいとは、と首をひねった。しかし、確かに「協奏曲」としての難易度というのは、譜面の難しさには比例しないし、ましてや上手な人が弾いていれば、難しい曲も簡単に聴こえるのが常である。そして、確かにシューマンの協奏曲の難易度が高いということを思い知らされたコンサートがあったのである。

年の瀬の帰省前。実は生でシューマンのピアノ協奏曲を聴くのは初めてだった。新進気鋭の某国のピアニストで、何度も来日していて、ここ数年は複数のピアノ協奏曲を演奏するというのが恒例になっていたらしい。ホールは都内の一流どころだし、今年のライブ聴き納めととても楽しみにしていた。

第一部の協奏曲はベートーヴェンの〈皇帝〉。こちらは余裕綽^{しゃくしゃく}綽^{しゃくしゃく}で実に素晴らしい弾きっぷり。さすが若手ホープ、と気持ちよく聴いて第二部のシューマンをわくわくしながら待った。しかし、スタートしてすぐに、「？」と思った。〈皇帝〉よりも全然音が小さいのだ。やがて分かった。明らかに練習不足であると。恐らく、彼ほどの才能なら、曲そのものをさらって暗譜するのはそんなに時間が掛からなかっただろうから、このくらいで大丈夫、と思ったに違いない。おまけに、オーケストラともあ



リパッティ：シューマン／ピアノ協奏曲 (カラヤン指揮)
ほか ©WARNER CLASSICS

まり曲を合わせていなかったらしく、本番で初めて、いかにこの曲をオーケストラと共に引っ張っていくのが難しいのかに気付いたのだ。特に第三楽章は大部分が掛け合いで途切れなく、仕切り直して合わせられるところがほとんどないので、互いの音を聴かないと合わせられないのだが、ピアニストに自信がなく、どんどん音が小さくなっていくので、オーケストラもピアニストの音を聴こうとつられていよいよ音が小さくなっていく。止まってしまうのではないかと非常にハラハラさせられ、なんとか終了。ピアニストと指揮者が抱きあったのはどう見ても「止まらなくてよかった」という^{あんど}安堵であった。私も安堵したものの、やがて猛然と怒りが込み上げてきた。私のいちばん好きなピアノ協奏曲を練習不足で披露するとは！ シューマン様に謝れ！拍手もせずに即座に席を立てて帰ったのは、いまだにあの時だけである。

◎ヴァイオリン奏者

川口 堯史

Takashi Kawaguchi

スケールの大きな
音楽家になりたい

「2月は、読響名誉指揮者でロシアの巨匠、テミルカーノフが来日します。公演への期待と、ヴァイオリンの魅力を合わせて教えてください」

同じく名誉指揮者のロジェストヴェンスキーさんと昨年5月、ブルックナーの交響曲第5番で共演しました。涙した楽団員もいたほどで、作曲家とオーケストラとの間の架け橋となって、作曲当時に連れていってくれるような気がしたのを鮮明に覚えています。テミルカーノフさんもそういうマエストロではないかとワクワクしています。特に、ドヴォルザークの交響曲第9番が、どんな〈新世界から〉になるのか楽しみです。

ヴァイオリンは、華やかで美しくなければいけません。イタリア・ポッジ製の愛器と一体になり、艶のある音で弾くことにこだわっています。

「1986年生まれ。2002年日本クラシックコンクール全国大会高校の部最高位、03年全日本学生音楽コンク

ール高校の部1位などを受賞。桐朋学園大学を卒業後、数々のオーケストラのエキストラに出演し、昨年読響に入団しました」

東京・世田谷でヴァイオリン教室を開く母親の影響で、3歳からヴァイオリンを始めました。とにかく練習嫌いで、2日に1度は厳しかった母親とけんかしていましたが、母の教室でアンサンブルの楽しさも学んだことが、後にオーケストラに入りたいと思う原動力となったので感謝しています。中学2年の時に、サン＝サーンスの〈序奏とロンド・カプリチオーソ〉と出会ってその奥深さに感銘し、やっと本腰を入れるようになりました。自宅から近かったこともあり、桐朋女子高校（音楽科は共学）に進学。同級生に、ヴァイオリニスト・神尾真由子さんやチェリスト・宮田大さんなど「スター学生」がたくさんいました。自分より実力が上の人がいればいるほど、ヤル気もみなぎるタイプ。高校時代に周りの人からもたくさん自分を学び、結果もついてきました。

オーケストラの初エキストラが読響。その風通しのいい雰囲気などに惹かれ、どうしても読響に入団したく、「空き」を待っていました。そして、



2016年に受けたオーディションで合格。大学卒業から入団までの8年間、国内外問わず様々な経験を積んできました。

「そんな「恋人」の読響は、いかがですか」

読響の話になると、何時間あっても足りません。オーケストラは長年一緒にやっていると、どうしても慣れが出てしまうものです。一方で、その都度構成されるオーケストラ、例えば「サイトウ・キネン・オーケストラ」や「ルツェルン祝祭管弦楽団」は、「この時にしかできない」といった緊張感があり、読響はそんな雰囲気も持っています。また、仕事として演奏をただこなしているのではなく、何かを見つけて今を楽しもうという空気がある。だから、皆が同じ方向を向いた時の爆発力は凄いですよ。「不正解」はあるが、「正

解」がないのが音楽。逆に言うと、音楽にはいっぱい正解があるんです。「こうじゃないとダメ」というのではなく、選択肢が多いのが読響だと感じています。恋焦がれて入った読響が、

思っていたそのままだったので、読響の伝統を大切にしつつ時代と共に成長していけるよう精進したいです。

「自分はまだ足りない所が多いと感じています。例えば、しっかりと「楽譜を読み込む」こと。自分では読み込んでリハーサルに臨んだつもりが、先輩方の前ではまだまだです。全日本学生音楽コンクールで1位となった時に新聞記事になりましたが、そこで「スケールの大きな音楽家になりたい」と話しています。その気持ちは今でも変わりません。細かい所までできていて、さらに視野が広い音楽家。オーケストラで勉強を重ね、ソロや室内楽でも活躍していきたい。また、下積みの長さも活かしていきたいですね。

小林研一郎が得意のチャイコフスキーで渾身のタクト!

3/3 (土) 15:00 第8回 パルテノン名曲シリーズ
パルテノン多摩大ホール

チャイコフスキー：弦楽セレナード
チャイコフスキー：交響曲 第5番
指揮：小林研一郎 (特別客演指揮者)



小林研一郎

胸に迫る旋律。マズアが振る《ドイツ・ロマン派名曲選》

3/10 (土) 14:00 第205回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

3/11 (日) 14:00 第205回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

ウェーバー：歌劇〈オイリアンテ〉序曲
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
シューマン：交響曲 第3番〈ライン〉
指揮：謙 = デイヴィッド・マズア ヴァイオリン：アラベラ・美歩・シュタインバッハー



謙 = デイヴィッド・マズア

俊英ナナシが R. シュトラウスの傑作で熱いドラマを生む!

3/16 (金) 19:00 第576回 定期演奏会
サントリーホール

モーツァルト (ブゾニ編)：歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲
ブゾニ：ヴァイオリン協奏曲
R. シュトラウス：交響詩〈ツァラトゥストラはかく語りき〉
指揮：ヘンリク・ナナシ ヴァイオリン：ルノー・カプソン



ヘンリク・ナナシ

聴衆を熱狂へと誘う、“炎のマエストロ”の〈幻想交響曲〉

3/20 (火) 19:00 第610回 名曲シリーズ
サントリーホール

3/21 (水祝) 14:00 第102回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

ロッシェニ：歌劇〈セビリアの理髪師〉序曲
ビゼー：〈アルルの女〉第2組曲
ベルリオーズ：幻想交響曲
指揮：小林研一郎 (特別客演指揮者)



小林研一郎

3 月 公演の聴きどころ

3月10、11日の《マチネーシリーズ》では、ボストン響やフランス国立管と関係を深めて欧米で注目を浴びる新鋭指揮者、謙 = デイヴィッド・マズアが、2015年8月の《三大交響曲》以来2度目の来演を果たす。父親であるクルト・マズア (元読響名誉指揮者、15年死去) 譲りのドイツ音楽で非凡な手腕を発揮する。メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲では、ニューヨーク・フィルなど名門との共演を重ねる名花シュタインバッハーが、銘器ストラディヴァリで優美なソロを奏でる。その艶やかな音色に期待が高まる。メインはシューマンの交響曲第3番〈ライン〉。雄大な川の流れを感じさせるメロディーを伸びやかに歌わせるだろう。

16日の《定期》には、先鋭的な舞台で高名なベルリン・コーミッシェ・オーパーの音楽総監督を務め、欧州で頭角を現す俊英ナナシが初登場し、R. シュトラウスの傑作〈ツァラトゥストラはかく語りき〉などを指揮する。この曲は、R. シュトラウスがニーチェの同名の著作にインスピレーションを得て作曲した傑作。導入部は映画『2001年宇宙の旅』でも使われており、耳にした方も多いただろう。どんな熱いドラマを繰り広げてくれるのか、要注目だ。前半はブゾニのヴァイオリン協奏曲にブゾニ版のモーツァルト〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲と、珍しい曲を取り上げる。ブゾニはイタリアで生まれ、ドイツを中心に活動した作曲家・ピアニストで、バッハ作品の校訂・編曲を数多く行ったことでも知られる。往年の巨匠らが愛したヴァイオリン協奏曲を、フランス出身で人気の高い名手カプソンが弾く。

20日の《名曲シリーズ》、21日の《みなとみらいホリデー名曲シリーズ》は小林研一郎 (読響特別客演指揮者) が、^{オハコ}十八番のベルリオーズ〈幻想交響曲〉で完全燃焼。“炎のマエストロ”が、作曲家自身の恋愛体験に基づく半自伝的な交響曲に熱い魂を注入し、聴衆を熱狂へと誘うだろう。また、前半のビゼー〈アルルの女〉第2組曲では“メヌエット”“ファランドール”などおなじみの旋律を、濃厚な音色で響かせる。

(文責：事務局)

読響チケットWEB

検索

興奮のリズム! カンブルランのベートーヴェン第7番

4/7 (土) 14:00 第206回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

4/8 (日) 14:00 第206回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

ラモー：歌劇〈ダルダニウス〉組曲から
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番〈トルコ風〉
ベートーヴェン：交響曲 第7番

指揮：シルヴァン・カンブルラン（常任指揮者）

ヴァイオリン：佐藤俊介



シルヴァン・カンブルラン



佐藤俊介

“チーム長原”が繰り広げる二つの弦楽八重奏曲

4/9 (月) 19:30 第18回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール ※19:00からトーク

《長原幸太リーダーによる室内楽》
メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 作品20
エネスコ：弦楽八重奏曲 作品7

ヴァイオリン：長原幸太（コンサートマスター）ほか



長原幸太

カンブルランが振る〈くるみ割り人形〉&〈春の祭典〉

4/13 (金) 19:00 第611回 名曲シリーズ
サントリーホール

4/14 (土) 14:00 第103回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

4/15 (日) 15:00 第9回 パルテノン名曲シリーズ
パルテノン多摩大ホール

チャイコフスキー：バレエ音楽〈くるみ割り人形〉から
モーツァルト：クラリネット協奏曲
ドビュッシー：クラリネットと管弦楽のための第1狂詩曲
ストラヴィンスキー：春の祭典

指揮：シルヴァン・カンブルラン（常任指揮者）

クラリネット：ポール・メイエ



シルヴァン・カンブルラン



ポール・メイエ

常任ラスト・シーズンに贈る、マーラー晩年の傑作

4/20 (金) 19:00 第577回 定期演奏会
サントリーホール

アイヴズ：ニューイングランドの3つの場所
マーラー：交響曲 第9番

指揮：シルヴァン・カンブルラン（常任指揮者）



シルヴァン・カンブルラン

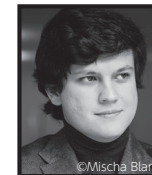
新鋭ショハキモフが振る《ラフマニノフ&チャイコフスキー》

4/28 (土) 14:00 第207回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

4/29 (日) 14:00 第207回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

ムソルグスキー（リムスキー＝コルサコフ編）：交響詩〈はげ山の一夜〉
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番
チャイコフスキー：交響曲 第5番

指揮：アジス・ショハキモフ ピアノ：ガブリエラ・モンテローロ



アジス・ショハキモフ

ウィーン・フィルの女性コンマス、ダナイローヴァが共演

5/15 (火) 19:00 第612回 名曲シリーズ
サントリーホール

ロッシーニ：歌劇〈ウィリアム・テル〉序曲
グラズノフ：ヴァイオリン協奏曲
チャイコフスキー：交響曲 第6番〈悲愴〉

指揮：ヤデル・ビニャミーニ ヴァイオリン：アルベナ・ダナイローヴァ



ヤデル・ビニャミーニ

鬼才ヴォルコフが華麗に響かせる名曲〈展覧会の絵〉

5/20 (日) 14:00 第104回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール

ブラームス：大学祝典序曲
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
ムソルグスキー（ラヴェル編）：組曲〈展覧会の絵〉

指揮：イラン・ヴォルコフ ヴァイオリン：クロエ・ハンスリップ



イラン・ヴォルコフ

〈不安の時代〉&〈革命〉、20世紀の“魂の叫び”を聴く!

5/30 (水) 19:00 第578回 定期演奏会
サントリーホール

プロコフィエフ：アメリカ序曲
バーンスタイン：交響曲 第2番〈不安の時代〉
ショスタコーヴィチ：交響曲 第5番

指揮：イラン・ヴォルコフ ピアノ：河村尚子



河村尚子

お申し込み・
お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390
(10:00~18:00/年中無休)
ホームページ・アドレス <http://yomikyo.or.jp/>

ウェスタ川越特別演奏会

■3/4(日) 14:00 ウェスタ川越

指揮：小林研一郎

チャイコフスキー／弦楽セレナード、交響曲 第5番

[料金] S ¥6,000 A ¥4,000 (大学生以下 S ¥5,000 A ¥3,000)

[お問い合わせ] ウェスタ川越 049-249-3777

読響チケットセンター 0570-00-4350

(大学生以下の取り扱いはウェスタ川越のみ)

読響&芸劇 0才から聴こう!! 4才から聴こう!!

春休みオーケストラコンサート

■3/29(木) 11:30/13:30 東京芸術劇場

指揮：円光寺雅彦

ソプラノ：コロネりか バリトン：岡昭宏

ナビゲーター：中井美穂

ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番

ベートーヴェン／交響曲第5番〈運命〉から第1楽章

モーツァルト／歌劇〈フィガロの結婚〉から“もう飛ぶまいぞ、この蝶々”ほか

[料金] S ¥3,500 A ¥2,500 こども(3才以上小学生まで) ¥1,000

※11:30開演…0才から入場できます。

2才児まで保護者のひざ上の場合は無料(ただし、保護者1名につき子ども1名まで)。

13:30開演…4才から入場できます。全て有料となります。

[お問い合わせ] 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

(休館日を除く10:00～19:00)

多摩市民感謝コンサート

■3/31(土) 15:00 **発売** 多摩 大ホール

指揮：大友直人

ヴァイオリン：前橋汀子

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲

スメタナ／連作交響詩〈わが祖国〉から“モルダウ”

ブラームス／大学祝典序曲 ほか

[料金] 多摩市民 ¥3,000 一般 ¥4,800 高校生以下 ¥1,000

[お問い合わせ] チケットパルテノン 042-376-8181 (休館日を除く10:00～18:00)

右ページの広告にて読響主催公演(土曜・日曜マチネーシリーズ)と同日開催の公演が掲載されています。

読売テレビ開局60年記念 © Hanns Joosten

TAKENAKA presents

読売テレビが主催する公演のご案内

Komische
OPERA
BERLIN

ベルリン・コーミッシュ・オーパー
オペラ

魔笛

Die Zauberflöte
Wolfgang Amadeus Mozart

作曲：W.A. モーツァルト

演出：パリー・コスキー

【全2幕ドイツ語上演・日本語字幕付き】上演時間：2時間45分(休憩含む)

世界中で連日完売!!
ドイツ・ベルリンより、新演出で魅る
モーツァルト最後のオペラが日本初上陸!

東京

4月7日④ 14:00開演
19:00開演
8日⑤ 13:00開演

Bunkamura オーチャードホール

S ¥28,000 A ¥23,000 B ¥18,000 C ¥14,000 D ¥10,000 SS ¥33,000

・Bunkamuraチケットセンター 03-3477-9999 (オペレーター対応/10:00～17:30)

・オンラインチケット MY Bunkamura (要事前登録・PC & スマートフォン)

http://www.bunkamura.co.jp/mybunkamura/

0570-02-9999 (Pコード:339-777)

・ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応/10:00～20:00)

・イープラス http://eplus.jp/komischeoper-berlin/ ほか

直接販売

びあ、各コンビニエンスストア、東急シアターオーブチケットカウンター(11:00～)

Bunkamuraチケットカウンター

お問合せ：サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (10:00～18:00)

広島

4月11日⑥ 14:00開演
19:00開演

広島文化学園HBGホール

S ¥26,000 A ¥21,000 B ¥17,000 C ¥13,000 D ¥9,000 SS ¥32,000

・チケットびあ 0570-02-9999 (Pコード:336-552)

・ローソンチケット 0570-084-006 (Lコード:61788)

・イープラス http://eplus.jp/komischeoper-berlin/ ほか

直接販売

びあ、各コンビニエンスストア、エディオン・広島本店プレイガイド

お問合せ：キョードー西日本 092-714-0159 (月～金10:00～19:00、土10:00～17:00)

兵庫

4月14日④ 14:00開演
19:00開演
15日⑤ 14:00開演

兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO 大ホール

S ¥27,000 A ¥22,000 B ¥17,000 C ¥13,000 D ¥9,000 SS ¥32,000

・芸術文化センター

チケットオフィス 0798-68-0255 (10:00～17:00、月曜休、祝日の場合翌日休)

・チケットびあ 0570-02-9999 (Pコード:340-143)

・ローソンチケット 0570-08-4005 (Lコード:57058) ほか

直接販売

びあ、各コンビニエンスストア、芸術文化センターチケットオフィス(10:00～17:00、月曜休、祝日の場合翌日休)

お問合せ：キョードーインフォメーション 0570-200-888 (10:00～18:00)

※全席指定・税込 ※未就学児入場不可 ※開場は各公演の45分前予定 ※開演時間に遅れますと長時間お待ちいただく恐れがあります。時間に余裕を
もってお越しください。※0570で始まる電話番号は、一部の携帯電話・PHS・IP電話からはご利用になれません。※音声自動応答での受付番号はダイヤル回線からの
ご利用はできません。プッシュ回線またはトーン信号の出る電話機からおかけください。



©Jan Windszus

総監督／首席演出家

パリー・コスキー

2017年からバイロイト
音楽祭演出のパリー・
コスキーが、ベルリン
コーミッシュ・オーパーで
「魔笛」を新演出(2012年
初演)ついに日本初上陸!



指揮者

東京/兵庫公演
ガブリエル・フェルツ



指揮者

東京/兵庫公演
ジョーダン・デ・スーザ

©Brent Callis



指揮者

山田和樹

©Yoshinori Tsuru

日本で初めて
海外オペラを指揮

驚きの舞台映像は
公式HPまで!

http://www.kob-japan2018.com

KOB 魔笛 検索 ytv



読響が2018-19シーズンにお届けするコンサート、今月号では、大阪定期演奏会と読響アンサンブル・シリーズのプログラムをご紹介します。

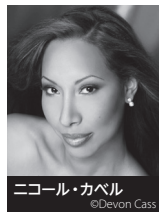
大阪定期演奏会

会場のフェスティバルホールは、関西を代表する伝統ある殿堂。読響は例年通り、3回のコンサートを開きます。



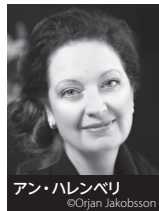
コルネリウス・マイスター
©読響

初回の6月には、首席客演指揮者コルネリウス・マイスターが満を持して登場し、声楽をとまなう壮大なマーラーの交響曲第2番〈復活〉を披露します。ウィーン仕込みのスマートなセンスと、歌劇場で培われた劇的な表現力



ニコール・カベル
©Devon Cass

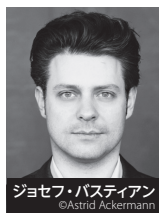
の相まった力演に期待が膨らみます。欧米で活躍するソプラノのニコール・カベル、メゾ・ソプラノのアン・ハレンベリが気品ある美声で歌い込み、国内随一の実力を誇る新国立劇場合唱団が圧倒的な迫力で盛り上げます。



アン・ハレンベリ
©Orjan Jakobsson

9月の回を振るのはフランス出身の新鋭指揮者、ジョセフ・バスティアン。名門バイエルン放送響で2016年に代役として鮮烈なデビューを飾って以

来、破竹の勢いで躍進する逸材です。ラヴェル〈ボレロ〉にドビュッシー〈海〉など母国フランスの名品を集めると共に、人気が高いチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲では、チャイコフスキー国際コンクール優勝の名手、神尾真由子と共演します。

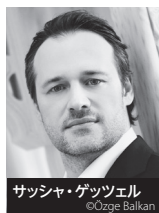


ジョセフ・バスティアン
©Astrid Ackermann



神尾真由子
©Shion Isaka

そして最終回の19年1月には、昨年末のベートーヴェン〈第九〉公演で評価を高めたウィーン生まれの俊英サッシャ・ゲッツェルが、再び指揮台に上ります。ドイツ・オーストリア系の名曲を並べたプログラムで直球勝負に挑みます。メインはブラームスの交響曲第1番。モーツァルトのピアノ協奏曲第23番ではジャズ界のスター、小曾根真が独奏を務めます。



サッシャ・ゲッツェル
©Ozge Balkan



小曾根真
©後山紀信



読響アンサンブル・シリーズ



東京メトロ大手町駅に直結した「よみうり大手町ホール」で、読響の名プレイヤーたちが腕を振るう読響アンサンブル・シリーズは、あつという間にチケットが完売する人気企画です。わずか501席の親密な空間で、ぜいたくなひとときをお楽しみください。



長原幸太
©読響

4月は、読響コンサートマスターの長原幸太がリーダーの室内楽プロです。みずみずしい情感にあふれたメロディーが泉のように湧き出してくる傑作、メンデルスゾーンの弦楽八重奏曲と、民俗色ゆたかで現代的な要素も加味されたエネスコの弦楽八重奏曲を並べます。読響が誇る弦楽セクションの厚みある威力が、存分に発揮されることでしょう。



日下紗矢子
©読響



北谷直樹
©読響

10月は、特別客演コンサートマスターの日下紗矢子が率いるタベです。ドイツでは室内オーケストラのリーダーを務めており、卓越した統率力でアンサンブルを引っ張ります。前半は欧州で活躍するスイス在住のチェンバロ奏者、北谷直樹を迎えてバッハの

ブランデンブルク協奏曲第5番などを演奏。後半では20世紀の名作であるバルトーク〈弦楽のためのディヴェルティメント〉を取り上げ、ハンガリー民謡の野趣とモダンな作風が織りなす音世界を描き尽くします。

指揮者での活躍が目立つ上岡敏之がピアニストとして登場する12月は、ピアノを中心とした室内楽の名品をお届けします。重厚かつ情熱的なブラームスのピアノ四重奏曲第3番で幕を開け、マーラー初期のピアノ四重奏曲断章でロマンティックな雰囲気を出し、ボロディンのピアノ五重奏曲ではロシア国民楽派らしい民俗風のタッチを楽しませます。



上岡敏之
©武藤幸

当季ラストの19年2月は、読響コンサートマスターの小森谷巧をトップに、木管セクションの腕利き奏者を加えた一夜となります。軽妙な味わいに富んだモーツァルトのオーボエ四重奏曲へ長調に、さまざまな楽器が愉悦感に満ちたアンサンブルを展開していくシューベルトの八重奏曲と、古典派から初期ロマン派のエッセンスを凝縮した聴きごたえのあるプログラムです。



小森谷 巧
©読響